

# 全 員 協 議 会 記 録

平 成 3 0 年 6 月 1 9 日

【開催日】 平成30年6月19日

【開催場所】 議場

【開会・散会時間】 午後3時45分～午後4時12分

【出席議員】

副議長	矢田松夫	議員	伊場勇
議員	大井淳一朗	議員	岡山明
議員	奥良秀	議員	河崎平男
議員	河野朋子	議員	笹木慶之
議員	水津治	議員	杉本保喜
議員	高松秀樹	議員	恒松恵子
議員	中岡英二	議員	中村博行
議員	長谷川知司	議員	藤岡修美
議員	松尾数則	議員	宮本政志
議員	森山喜久	議員	山田伸幸
議員	吉永美子		

【欠席議員】

議長	小野泰
----	-----

【執行部出席者】

副市長	古川博三	総務部長	芳司修重
総務課課長補佐	田尾忠久	総務課庁舎耐震対策室長	臼井謙治
総務課総務係長	竹内広明	総務課庁舎耐震対策室主任主事	室正秀
建築住宅課建築係主任	山本雅之		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	事務局次長	石田隆
議事係長	中村潤之介	議事係書記	原川寛子
庶務調査係書記	光永直樹	庶務調査係書記	小松美緒

【付議事項】

1 市役所本庁舎耐震改修事業について

午後3時45分 開会

矢田松夫副議長 ただいまより全員協議会を開催します。本日の付議事項は市役所本庁舎耐震改修事業について執行部の説明をお願いします。

芳司総務部長 市役所の本庁舎の耐震改修につきましては、これまでにも担当委員会、今日の一般質問の中でも御説明をさせていただきましたが、本

日改めてお手元に配付しております資料に沿う形で基本計画について御説明をさせていただきたいということでお時間を取っていただきました。説明につきましては、総務課庁舎耐震対策室の臼井室長からさせていただきますので、よろしく申し上げます。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 お手元にお配りしています山陽小野田市役所本庁舎耐震改修基本計画について御説明申し上げます。これは、平成27年度から検討を開始しました庁内プロジェクトにおける検討結果、そのために用いました庁舎整備基本方針検討支援業務委託において提出されました検討資料、また、平成29年度に行いました庁舎（本館）老朽化調査等業務委託の成果を踏まえまして、今年2月に策定したものであります。さらに、今年度に入りまして、総務課内に庁舎耐震対策室が設けられまして、改めてその内容を検討し直しまして、居ながら工事を選択したほか、組織改編に伴い建物の概要における表記も変更したところであります。

では、改めましてこの基本計画の内容ですが、その構成は、「1. はじめに」「2. 本庁舎の現況について」「3. 庁舎整備に係る課題」「4. 本庁舎耐震改修の方針について」「5. 整備の内容について」の5部構成としておりまして、順に、それぞれのポイントについて簡略に御説明いたします。

1 ページ目をお開きください。まず、1. はじめにです。庁舎が災害時における防災拠点となること、そうした役割が求められている中で、耐震性の確保に加え、設備等の老朽化対策の必要性を強調しています。次に、2. 本庁舎の現況については、本館等の建築年や延べ床面積、機構の現状、配置等について確認しています。3. 庁舎整備に係る課題では、平成26年度に行われました耐震2次診断の結果として各階のI s値を示し、平成29年度老朽化調査の結果として建築工事と設備工事それぞれの工種ごとの指摘事項を示し、かつ、延べ床面積の不足を端的に記述しています。また、4 ページに小さく記載されていますが、この部で重要な箇所として、I s値の目標値を本館においては、0.72、別棟については0.48であるとしています。これは、地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低いとされるI s値0.6に用途係数と地域係数を加味した数値で、国の総合耐震・対津波計画基準に準じた取扱いとして設定しているものです。4. 本庁舎耐震改修の方針については、先に申し上げました検討を踏まえ、各建物ごとの方針を示すとともに、本庁舎を今後20年程度、使用することを想定した対策を施すとともに、新庁舎建設に向けて準備する旨、方針として位置

付けております。次に、5. 整備の内容についてでございます。庁内プロジェクトで検討されました四つの工法比較で、在来工法でのアウトフレーム工法を耐震補強の手法として基本的に採用するものとしたところ です。メリット、デメリット、コスト比較、工期については、御覧のとおりで、特に、在来工法でのアウトフレーム工法は、居ながら工事が可能となっているところが他の工法に対し、際立った特徴であります。居ながら工事を選択したことで、機能の分散に起因する業務の非効率、混乱、市民サービスの低下といった懸念はなくなりましたが、同時に、工事期間中の業務継続のための方策が必要となりますので、そうした対策を記述したものとなっております。加えて、9 ページに別添スケジュールを掲載しておりますが、老朽化対策工事につきましては、実施設計の成果を精査しながら、予算要求過程の中で庁内合意、財政の裏付けを取り付け、計画のローリング、ブラッシュアップを適宜行っていきたいと考えておりますので、決して現時点で確定しているものではないことを御了承ください。以上、簡単ではございますが、基本計画の説明とさせていただきます。

矢田松夫副議長 以上で説明を終わりましたが、議員の皆さん方の質問を。

山田伸幸議員 つい先日まで商工センターで居ながら工事がやられていたんですが、そのときの状況についてはどのように把握しておられますか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 部長と私と室員の室の3人は現地の確認を行いました。ブレーカーを使用してはつり工事を行っていますので、かなりの騒音が出ています。私が行ったときには4階の工事をしていましたが、4階の工事を行っているとき1階の執務の状況は良好であったと。3階、4階での騒音というのはかなりひどいものがありました。防音の養生をしておりましたけど、現場近くと敷地境界辺りに大きな違いを感じませんで、防音シートというのはさほど効果がないんだろかなという印象も受けたところでございます。

山田伸幸議員 正に言われたとおりで、私も何度か伺っておりますが、そのたびに職員の方あるいは商工会議所の方ともお話をしたのは、音の問題それから非常に暗くなるという問題、何か閉じ込められたような感覚がずっと付きまとっていて、非常に嫌な気分になるという状況でした。そういった中で、特に市役所の業務、そういった中で果たして正常な感覚でできるのかな、今までと全く変わってくるわけですからその点での精神

的あるいは物理的なそういう不安はどのように考えておられるのでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長　　この議場に入る前もある業者さんの提案を受けておりました。大きな音あるいは大きな振動が発生しますのは、ベランダのはつり工事、アンカー打ちといった工程になろうかと思えます。これを全て土日施工というわけには現実的にはいかない。市役所の業務時間中にする必要はあろうと思っておりますけども、サイレンサーといえますか、今大変静かな機械もあります。はつり工事は商工会議所で行ったようなブレーカーを想定していません。いわゆる重機、油圧クラッシャーによるはつりといったものを想定しておりました、その際はかなり商工会議所に比べて音は低減するだろうと。加えて、非常に開口部が多い、窓が多いラーメン構造ですので、窓を割ったりといったことはありません。それで、防音のボードなんかを窓のほうに、外付けになろうと思うんですけども、そういったものを考えています。これで騒音とか粉じんはかなり軽減されるだろうと。ただ暗いです。暗いんですが、庁舎は電気もエアコンも使えますので、業務への支障は少ないだろうと考えています。

山田伸幸議員　　業務への支障というのは、その中で実際に仕事してみないと分からないんですよ。商工会議所の職員とか市の出張所もありますので、そういった職員への聞き取りはされたんでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長　　公園通出張所の職員への聞き取りは行っております。商工会議所の職員からも聞き取りを行いました。また一昨年度、南支所でエレベーター工事をしてかなり騒音が出ておりますので、そのとき私は社会教育課におりましたので、南支所や赤崎公民館の職員にも、私も週に1回程度は現場に行っておりましたし、騒音の状況は把握しております。確かに三つの工事については、支障があったらと思います。そういうことにならないように実施設計においては、業者の提案をしっかり受けたい。その上で、市役所の執務に影響が最小限となるような工法を探っていきたいと考えております。

大井淳一郎議員　　当初の仮庁舎みたいなのを建てるやり方と、今回居ながら工事をするというので、改訂されているんですが、実際居ながら工事に変えること、先ほど臼井さんが言われたような防音を最小限に抑えた場合、かえってコストが掛かるのではないかと思うんですが、実際に仮庁

舎を建てた場合と今考えている場合でコスト比較をした場合、どれぐらい差があるのでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 先日の総務文教の中でお話をさせていただいたのは、概算ですが、2億8,000万円程度、居ながら工事をする事で経費の削減ができるのではないかと説明をいたしました。ただこのときの2億八千何がしといった金額は当初外の仮設庁舎に出て、耐震工事とともに老朽化の対策を2か年で一遍にする構想がございましたので、仮設庁舎の貸借する期間が少し長めに持っている、そういったことで概算経費を出しておりましたけども、その時には2億八千何がしといった回答を差し上げているところです。

大井淳一郎議員 もう1点、I s値が4ページに出ているんですが、耐震工事を行うことで目標値にどれだけ近づいていくのかある程度分かりますか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 設計の目標として、0.72以上です。別棟については解体という方針を定めておまして、これは目標値と挙げているんですけど、耐震工事を実際に行うわけではありません。

大井淳一郎議員 私が聞きたいのは、耐震工事をすることによって、実際にI s値がどのぐらいになるのか。目標値は0.72になるという意味なんですか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 0.72以上です。

中村博行議員 結局、耐震工事によって、一般質問の回答で総額が10億から15億という答弁があったと思うんですけども、その辺りでもっと詳しい説明が欲しいんですけど。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 概算経費を事務局で把握しておりますのは実は2種類ございまして、先ほど申し上げました庁舎整備基本方針検討支援業務における資料と庁舎老朽化調査等業務委託による成果品の二つあります。この二つの概算経費を見比べますと、実はかなりのかい離がありまして、中身は本当に更新しなきゃいけないのか、まだもう少しもつんじゃないかというものも網羅する形で出ております。この必要性の高いもの、優先順位が高いものから実施していきたいと思っております。実施設計ではほぼ網羅した形で設計を組むにしても、工事の施工全てをす

るということではなくて、予算との兼ね合いを見ながら、年次的に行っていきたいという考えを持っています。ちなみに申し上げますと、受注者は株式会社藤田建築設計事務所というところが受注しておりまして、そこに示されている耐震化を除く建築設備に関する概算は7億6,978万5,000円という概算経費が出ております。しかしながら、これはいわゆる予定価格を組む上での積み上げの計算方法とは違いますので、これをそのまま概算として捉えているわけではないということです。

松尾数則議員 別館は手付かずで使われるわけですね。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 現状総務課が位置付けている実施計画は別棟の解体に係る実施設計、解体工事費はまだ位置付けておりません。これは新設、建て替えの必要性があるだろうということを考えておりまして、セットで考えたい。その間、売店と食堂、組合事務所とSEルームという形で使っていますので。（「別館の話」と呼ぶ者あり）別館は平成3年の建築ですので、今新耐震基準です。何も触る必要はないというふうに考えています。

矢田松夫副議長 手付かずということでもいいんですね。耐震の対象ではないということですね。（「耐震の対象ではありません」と呼ぶ者あり）

松尾数則議員 あれは3階建てですよ。基準法上3階建てだからエレベーターは別に要らないわけだけど、ハートフル法はどうやったっけ。3階以上はエレベーターが要するというふうになっているんじゃないかと思うんですけど、それはどう考えているんですか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 エレベーターの必要性は感じています。それを将来の構想の中に入れていく必要があるかどうか。もともと別館が建った際に、北側に後々エレベーターが設置できるように開口部を広く取ったところがございます。しかしながら、30年近くたった現在においてもエレベーターが設置できていない。これは大きな宿題であろうというふうに考えています。

芳司総務部長 別館のエレベーターであるとか今日のちょうど岡山議員の一般質問でもあったんですけど、今回の改修工事につきましては、まず耐震補強と一定の機能を維持させるための改修というのがメインになるかと思っております。ただ、いろいろ御指摘、御意見もありますので、当

然バリアフリー新法に沿った形で利用者の利便性ということも今後考える必要があります。これについてはどこで線を引くのかとあるんですけど、今後年次的に改修を行っていく中でも今回の老朽化対策と併せるようになるのか切り離してなるのか分かりませんが、しっかり計画を立てながら利便性の向上には努めていきたいと思えます。エレベーターについても、将来的には当然つけるようになるのかなというふうなことは考えております。

河崎平男議員 基本計画は、決定したものではないということですが、市民への説明はどのようにされるんですか。

矢田松夫副議長 この中ではできるだけ早くというふうに書いてありますが。

芳司総務部長 基本計画については、今お示しをしておる内容でございますので、これについては決定ということ御理解いただけたらと思えます。今後、実際に利用者に対して御迷惑をお掛けすることになろうというふうには思っておりますので、今年度実施設計をする予定でおります。その中で具体的な工期であるとか実際に工事中の工区であるとかがはっきりしてまいりますので、それが分かった段階でできるだけ早く市民の方、利用者の方には周知を図っていきたくと思えます。

河崎平男議員 現在ボーリングとかやりよってこういう説明はないんですか。市民にはやるべきではないんですか。市民の皆さんが来て止められないとか不便を感じちよってんじゃないんですか。説明とかは先にするべきではないんですか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 確かに本格的に今日からボーリング調査に入っております。昨日までは、試掘でした。職員に車を使った通勤についてノーマイカーをするように協力を呼び掛けて行ったんですが、今日非常に多かったです。ホームページ等で周知を今後図っていきたくと思えます。

奥良秀議員 2点ほど教えていただきたいんですが、今回このDのアウトフレーム工法採用ということでどういう工事かというのは大体分かるんですが、くい工事が発生するということで薬学部もありましたが、建設工事の種別が何になるのかというのが1点とこのアウトフレーム工法、前の市長も言われていたけど、できることは市内業者でやるというお話でしたが、この工法ができる市内業者はいるのでしょうか。この2点を教



えてください。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 まず、契約の形態は請負契約です。建設業法による工事請負契約です。

奥良秀議員 私が知りたかったのは、土木工事、建築工事、いろいろあるんですが、薬学部の建設工事の場合はくい工事の場合は先行発注として土木工事をされました。今回の場合もくい工事がありますよということで、先行発注されるのかどうかは知りませんが、一括で出されるのかどうかというのと、その工事の種別が建築なのか土木なのかというのを答弁願いたいと思います。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 すいません。失礼しました。一括で発注することを考えておりました、建築工事を行います。今想定しているアウトフレームでの工法は約3億ということでございますので市内業者であろうと考えております。

奥良秀議員 約3億の耐震補強工事をやった業者は市内業者でいらっしゃるんですか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 小中学校の耐震は全て埴生小学校を除いて完了しております、全て市内業者が受注をしております。金額で申し上げますと一番高いところは埴生中学校管理普通特別教室棟で手元資料で申し上げますと1億3千万円余りです。これはアウトフレーム、実際に市役所が行おうとしている工法と同じでございます。それ以外のところで申し上げますと厚狭小学校は三つに分けています。普通教室棟と管理特別教室棟、普通教室棟とありまして、最初に申し上げたのは5,300万円余り、次の管理特別教室棟が2,700万円余り、最後の普通教室棟が2,400万円余りです。厚狭中学校は9,900万円といった施工の実績がございます。

奥良秀議員 今元請の金額をたぶん言われたと思うんですが、先般いろいろ言われるのが元請はいいですよ。その代わり下請、再下請等々が要は市内業者なのか市外業者なのかというところまでは把握されているでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 把握しておりません。

奥良秀議員　そこが1番問題で、市内業者を活用しましょうと市役所のほうでも言われているんですが、実際問題例を出すと問題があるんでなかなか言えませんが元請はとって、実は全部市外にお金が流れているよという物件が多々ありますので、その辺はよく注視されてみていただかないと困るかなと思いますのでここで附属して言わせていただきました。以上です。

杉本保喜議員　5ページのほうの建築工事、設備工事、ここにいろんな問題が書かれているんですが、これは今回で全て解決されるという見方でよろしいのでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長　情報システム室につきましては、債務負担行為をとって先行して実施していきたいと思っています。あと防災関係で申し上げますと優先順位が高いというのはやはり電気設備、そして給排水ということになるかと思います。給排水の更新というのは地下の配管を除けば割と容易に更新が可能なのではないかなと思っています。地下にピットがあるかないかによって難易度が変わってこようかと思っています。電気につきましては、これは大きな問題がございまして、今から実施設計に入った中で十分に検討していきたい。これは、発電機が今二機ございまして。それから高圧の受電設備、トランスコンデンサー受電盤といったものをどういうところに移設すべきか。津波、高潮対策を考えれば高さが要ります。これを具体的に実現するためにはかなり知恵を使う必要があろうかと考えております。

杉本保喜議員　今言われるように津波対策の検討というのは、非常に単純にこの辺りは3メートル、4メートルと言われているんですが、東北震災をみてもそれ以上の高さでもってきているという事例があるので、この辺りは本当にやらないとせっかくやったのに意味がなかったということがないように是非しっかり検討してやっていただきたい。以上です。

山田伸幸議員　先ほど市民への説明について語られたんですが、これは必要ないというふうに判断しておられたのでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長　今年度は具体的な工事というよりも業務委託、来年度に工事を施工するための準備として行ってございまして、市民への周知を今年度から行わないといけないということは失念してございました。

山田伸幸議員 それと全体の問題なんですけど市役所のあり方、特に近代的な市役所にしてほしいという考え方もありますし、一方でどんなに古くなっても使い続けて経費を節減せよという考え方といろいろあると思うんですが、そういった根本的な問題について市民を交えて話し合いをすべきではなかったかと思うんですが、そのお考えは副市長はお持ちではないのでしょうか。

古川副市長 先ほど総務部長も説明いたしました、26年度の耐震の結果からずっと28年度にこのような決定をして議会のほうにも説明をさせていただいたということの中で基本的にこの場所での耐震を主とした工事、それと同時に機能の強化ということの中で基本的に議会に説明ということで今までできておるといことでございます。

山田伸幸議員 問題はこの庁舎を使い続けることで機能強化が図れるかということなんですよね。もともと設計が古くてコンピュータの配線だとか様々な近代機器を建物に取り付ける、あるいは完全な水洗化とかそういった面でいうとずいぶん遅れた内容だと思うんです。トイレも閉鎖された空間にありますし、清潔面のこととかいろいろ考えると本当にこの建物を使い続けるのでいいのかという疑問を持つ市民も当然いらっしゃるわけですから、もっと幅広く検討が必要ではなかったのかというふうに思うわけです。結果として市民が現状でいきなさい、耐震化でいいではないか、あるいは思い切って市のランドマークということも必要ではないか、さらにはよその地域でやっているようにクラウドを導入するとか、あるいはほかの施設と併せて複合施設として市の持ち出しを減らしていくと。東京都の目黒区は市の持ち出しが実質ゼロ円で11階建てを建てておりますが、そういった工夫も必要ではないのか、そういった検討がほとんどされないまままきっているのではないかなと思うんですがその点ではいかがでしょうか。

芳司総務部長 将来的な庁舎の建替えについては当然、今、山田議員が言われたようなことを本当に広く検討する必要があるというふうに考えております。その一方で26年度に耐震診断をいたしまして、その結果が出ているわけですね。それからプロジェクトを立ち上げてやっている最中に28年4月には熊本地震が発生しております。そういった状況の中でいつ起こるか分からない地震であるとか災害に当面どう対応するのかということを考えれば、プロジェクトの結論を待つ必要があったんですけれ

ど、御説明したような基本方針に基づいてやるしかないのかなという結論であったと思っています。それでも随分時間がたってしまっておりますので、この辺りで耐震についてはスピード感をもって今後取り組んでまいりたいと思う一方で、将来的な庁舎の建設については本当に幅広い議論が必要というふうに思っておりますので早い段階から研究、調査を進めていければというふうに思っております。

松尾数則議員 D案アウトフレーム工法でやるということなのですが、これからみるとやっぱり0.78とコストが1番安いということから決められたと思うんですが、例えばこれがB案とD案比べた場合、どうもD案のほうが安くなるという気がしないんですが、D案というのは基礎を作ったりかなりの工事になるはずなんですよ。それが居ながらできるというのが1番心配なんです。それは当然踏まえてこういう工法に決められたんでしょね。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 これまで協議された検討内容を踏まえてD案を基本的に採用するという内容で今から実施設計に入るわけですが、新たな業者の提案を入れないということではございません。実際に設計に入りまして、土日施工が増え、あるいは工期が延びとそこに人役の割増係数を掛けていくとD案のほうが少し高いじゃないかとかいうことも現実的にあり得るだろうと思っています。それは設計の過程の中で評価をして修正しながら実施設計を作り上げていきたいと考えています。

水津治議員 4ページからは庁舎整備に係る課題の耐震化と長寿命化と(3)はその他がありますが、その他は合併によって職員数が増えたことに係る解決方法がこの中ではないんですが、これについては何か方策はあるんでしょうか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 整備基本方針検討支援業務委託の中で総務省の基準、あるいは国交省の基準、あるいは類似団体との比較をいたしますと山陽小野田市役所は現状、執務スペースが足りていないと、2,000平米以上足りていないという結論になっております。先ほど山田議員さんが言われたように例えばクラウドする、文書庫なんかも将来的には紙ベースをやめるというようなことが起こってきますと執務スペースというのが減っていくだろうと、これが何年先か申し上げにくいですが、ただ現状そういう比較をした際に足りないということは明らかで各課のヒアリングを今ずっと行ってきておりますけどやはり執務スペースや文

書庫のスペースをきっちり確保してほしいと各課の要望が出ております。つまりは、別棟を解体するという方針の下にこれを新たに建て替えるといったことがないと物理的に解決しないというふうに思っております。

矢田松夫副議長 5ページのその他の項のこの解決は新築以外ないということでもいいんですか。今執務スペースやらだけ言われたんですけど、その他の解決方法はどうするんですか。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 文書庫の新設等をしますと、今二階に大きなスペースの文書庫がございます。そこが例えば執務スペースとして使えるであるとか、当初別棟も入れた中で類似団体と比較もして更に足りないということがございますので、別棟を解体しますとそれに見合う新築というのは併せてする必要があるかなというふうに考えています。

矢田松夫副議長 市民にとって一番必要なのは各種窓口や待合室のスペースが狭あい化しているのを解決してくれという声が大きいのではないんですかね。その解決なくして今回の工事をするということは、新築以外ないという回答でいいんですね。

臼井総務課庁舎耐震対策室長 老朽化対策実施設計の中でとりわけ1階のレイアウト変更も考えながらロビー、待合それから今は市民課、国保年金課があつて、市民生活課があつて税務課があつて福祉関係が並んでいるというところも改善の余地はあろうと、トイレの話も出ました。トイレの位置があそこでもいいのかどうか。これは予算の許す範囲で老朽化対策として扱っていきたいと考えております。

大井淳一朗議員 今、再三答弁を聞いてみますと、今立てている計画ともしかしたら結構変わってくるのではないかという印象を受けたんですが、その辺をしっかりと精査された上で実施設計をしないと実際に工事に入ったけどいろいろな追加工事が増えて何やらかんやら増えていくというんじゃないや議会側も市民側も印象が悪いと思うんで、その辺の精査というのはされたほうがいいと思うんですがいかがですか。

芳司総務部長 折りしもちょうど今ヒアリングでいろんな意見を聞いております。執務スペースは当然なんですけれど、特に市民の方からすると各種の窓口であるとか待合スペース、玄関入っても非常に狭い、市民課自体も待合スペースが実はないという状況がございます。その辺りをどうし

ていくのかということの中で基本は耐震補強と機能の確保なんですけれど、どうしても不足しているスペースについては何らかの拡張というか増ということも必要になってくる可能性があります。この辺りについては、実施設計出す前の段階である程度確定をしておかないと後々変更変更となりかねませんので、今ヒアリングまだやっておりますけれども取りまとめ整理をする中で全体で協議をしながら財源のこともありますので関係部署でも協議をしながらどこまでできるのかという辺りの方向性をきっちり固めた上で実施設計には出していきたいと思っておりますし、当然こういう形になっていくというものがある程度明らかになった段階でまた担当の委員会にはしっかり御説明をさせていただきたいと思っております。

矢田松夫副議長 担当の委員会ではなくて、2月に策定して5月にまた3か月の間に変更になったわけでしょう。ですからこういう大事な部署部署については全員協議会とかで説明していただくように私からもお願いしたいんですが。

芳司総務部長 またその段階では、全員協議会こういった場を設けていただきましてしっかり説明をさせていただきたいと思っております。

矢田松夫副議長 以上でありますけれど、ほかにもないですね。その他ないですね。それでは以上をもちまして全員協議会を閉じさせていただきます。御苦労さんでした。

---

午後4時12分 散会

---